れ一り時給生で心しりさ早して片若稱きりき如入光 即のものひ方初なてしきやき朋残葉へ或た時くり陰 ち誠深日しはめるこ吾胸昔先友り茂以はりも過し矢 吾心きにな長て御の等にと生とてりて其ああぎよの 等を御かりき小垂幸はさなの相老合鬱のるり去り如 師以恩は其年學の運時まり御語鶯いを花時愉りこし にては忘の月校賜をによて轉らのた散のは快ぬこと 對報何る御をにな見そう今任ひ聲るじ美櫻に吾には し國のべ懇よ入るるののはをしも山心な花感等八ま卒 て盡辞き篤くりやに業み唯聞事稀野氣る満じ此ヶこ業 の忠を鳴な一し論至を入一きもなにをを開たの年とに 唯の以呼る日よをり卒學種である遊養賞のる校そな臨 一道てこごのり待しへ當無悲り時びいし期時にのりる のに謝の教如こたかん時限しあ静てし或朋もあ長けて 謝いせ山訓くこずそとはなみるか谷事は友ありきり 恩そんよを吾に抑れす西るし時に間も其相りし年吾 なしやり蒙等至々諸吾も感事は英のあの伴悲時月等 りま唯もりをる吾先等東じも吾雄山り高ひしはもの とん々高し教主等生はものあが傳櫻あ雅てき種は小 信と吾くこえで生の如辮吾りなを一るな杖時々や学 ずす等海と導諸ま御何へがそつ繙片時るをも面夢校 而こはよ何き先れ熱にざ小もかき二はを曳あ白のに

揚失諸ら睦し↑ せ墜子んみて さらせよこしこへ られざ君と母の左 ばんら等を校精か ii こんは望を神し 師とこ益み去は のをと々てる最 君望を奮止にも 健む期闘ま臨大 かし努ざみ切 に 併力る師な 我 せ以なのる が ててり君覺 高 友 吾吾吾我悟 さら ががががな 母母愛友り ば 校校すよハ 佐 藤 ののる益年 健 威 か 名體後々間 十 に を面進幸互

發をのあに